

祝 組合創立四十周年



全国紙管工業組合が、
 本年九月には創立四十周年を迎えるに至りました。これむひとえに、紙関連諸団体並びに関係各位のご支援の賜物と感謝申し上げます。また歴代理事長はじめ役員のご尽力の下、組合員皆様のご協力の賜物と感謝し、共に祝いたいと存じます。

理事長 竹本 實生

全国紙管工業組合の設立・・・市場の発展と関係企業の協調をめざして

紡績技術が明治初年に導入された当時、糸の巻芯は木管が使用されていたが、明治後年に我が国で初めて紙管が使用され始めた。時期を同じくして呉服反物用巻芯として木管から紙管が使用された。第二次大戦中は、金属製容器が紙製に代替されたが、その後デザイン性・経済性の面から一般的な包装容器としての需要が高まった。

戦後、合成繊維の生産が始まるや紙管はその輸出用巻芯として使用され、繊維輸出の増加と共に我が国戦後経済復興の「翼」を担った。その後、製紙用、フィルム用等のコアとしての需要が加わることによって、各分野で多岐に亘る用途開発がなされた。しかし、需要の急激な変化を見たのは、技術革新によって我が国経済が高度成長を果たした昭和三十五年以降のことであり、これと全国紙管工業組合の設立の動きとが一致したことは、必然性によるものと言わざるを得ない。

第二次世界大戦中に統制経済の中、紙器製造業として丸筒容器製造業や紡績紙管製造業が組織化されたことがあったが、戦後、懇親的なものとして存続していたに過ぎなかった。それを昭和四十年「全国紙管工業組合」の前身としての「全国紙管工業会」が、日本紙管工業(株)竹本利治氏、三協紙業(株)横田義明氏、(株)昭和丸筒佐藤秀雄氏の尽力によって発足した。

しかしながら、紙管市場は決して巨大なものではなく、それに関わる業者も中小企業が大半を占めている実状から、紙管製造の近代化促進、市

場全体の発展と、関係企業の協調を目的として「全国紙管工業会」を発展的に解散し、昭和四十二年九月「全国紙管工業組合」を設立、翌四十二年一月通商産業大臣(現経済産業大臣)より、工業組合設立認可を得た。以後、業界の発展を支えつつ、今年で四十周年を迎えることとなった。



初代理事長 竹本利治氏



創立10周年記念式典

全国紙管工業組合創立四十周年記念式典・祝賀会

日時 平成十七年十月二十八日(金)

午前十一時より

場所 大阪 新阪急ホテル 紫の間

全国紙管工業組合創立四十周年記念ゴルフ大会

日時 平成十七年十月二十七日(木)

場所 大阪 茨木カンパニー倶楽部

※ご案内は後日お送り致します。是非ご予定下さい。

●全国紙管工業組合ホームページ

<http://www.zenkokushikan.jp>

第三十九回通常総会が去る五月、山口県・松田屋ホテルにおいて開催され、新役員と各委員会委員が決定し、盛会のうちに終了することが出来ました。皆様の、ご協力に感謝申し上げます。

全国紙管工業組合も、今年九月には、通産省(現経産省)の承認を受けて四十年を迎えます。これもひとえに組合員皆様の支援の賜物と存じます。

そこで、十月二十八日新阪急ホテルにおいて、設立四十周年記念行事を執り行う予定であります。組合員各位の出席のもと、盛大に四十周年を祝いたいと存じます。

組合を取巻く環境、情勢は厳しいものがありますが、各委員会の活動の充実、部会活動の活性化、並びに生産性や品質向上の為の情報交換等、これからも知恵と工夫を出し合って一歩一歩業界の発展の為に飛躍を期するところです。

さて、我が国経済は、昨年半ばから続く景気の踊り場局面からの脱却に向け、少しずつ歩を進めており、個人消費にも明るさが出始めて来ましたが、原油価格の高騰、米中景気の行方という不安材料が消えないものの、景気の回復が期待される場所です。

「信頼と協調」言い古された言葉ですが、この二本柱こそ業界繁栄のカナメと考えております。四十周年を機に、組合員各位の意思疎通を大切にしつつ、共存共栄、結束を図る道を進んで行くようでありませぬか。

全国紙管工業組合が、更に発展する様、会員一同が自覚願い、新役員のもと、原材料の安定化、並びに紙管価格の安定に向け積極的な協力をお願いします。



去る五月十二日、山口県湯田温泉「松田屋ホテル」にて第三十九回通常総会が開催されました。

出席組合員数六十二社(内委任状三十五社)、出席者二十六名を得まして、平成十六年度事業報告書並びに決算報告書、平成十七年度事業計画案並びに収支予算案の件を審議の結果、原案通り可決承認されました。また、任期満了による役員改選につきましては先にお送り致しました「役員候補者名簿」の候補者満場一致で承認され、総会終了後の新理事会にて竹本理事長の留任が決定されました。

総会終了後、懇親会が開催され、組合員相互の親睦がより深まり、大盛況のうちに閉会しました。

翌日は五月晴れの中、宇部72カンントリークラブ万年池西コースにて、親睦ゴルフコンペ(参加者十四名)が開催され、大和川紙工(株)春山社長が優勝されました。



- 理事長 竹本實生(留任)日本紙管工業(株)代表取締役
副理事長 横田錦吾(留任)三協紙業(株)代表取締役
(専任理事兼任)
副理事長 下野正明(留任)西日本紙管(株)代表取締役
副理事長 赤崎勝三(留任)カオシ工業(株)代表取締役
委員会構成
経務委員会 横田錦吾(三協紙業(株)代表取締役)
委員長 中本忠徳(三協紙業(株)代表取締役)
副委員長 武川和義(武川産業(株)代表取締役)
委員 平田浩二(平田紙管(株)代表取締役)
技術開発委員会
委員長 下野正明(西日本紙管(株)代表取締役)
副委員長 大澤浩一郎(日本化工機材(株)代表取締役)
委員 池田恒彦(立山製紙(株)代表取締役)
竹本實生(日本紙管工業(株)代表取締役)
17年度委員会
委員長 村上和弘(竹林紙管(株)代表取締役)
副委員長 米谷隆利(米谷紙管(株)代表取締役)
委員 田中四郎(田中紙管(株)代表取締役)
赤崎勝三(カオシ工業(株)代表取締役)
P口情報委員会
委員長 鈴木基一(鈴木松尾堂(株)代表取締役)
副委員長 春山正智(大和川紙工(株)代表取締役)
委員 平手義彦(九手紙工(株)代表取締役)
中島島之(大和紙管(株)代表取締役)
野村幸良(日本紙管(株)代表取締役)

福山製紙株式会社

代表取締役社長
伊藤 晃

〒532-0031 大阪市淀川区加島2-2-1
TEL.06-6301-2131 FAX.06-6301-2919

包装と物流の新しい可能性を探る



本 社 〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25
梅田阪神第一ビルディング (06)6345-2371
ホームページ <http://www.rengo.co.jp/>

平成十七年度委員会事業の予定

総務委員増強委員会

定時総会で承認された事業計画に基づき、当委員会として、次の通り平成十七年度の事業計画を進める予定です。

情報事業として

① 紙管業界世帯訪問調査の実施及び報告
平成十七年七月頃

② 紙管製品需要予測の調査及び報告
平成十八年二月頃

教育事業として

① 労働条件調査及び報告
平成十七年十二月頃

② 春の賃上げ等に関する調査及び報告
平成十八年三月頃

以上の事項については、組合員各位にはご協力の程何卒よろしくお願い致します。

なお、今年度から、総務委員増強委員会と委員会名が変更になったことに伴い、当委員会として委員増強に取り組むことになりました。については、現時点で把握されている未加入企業以外でも、アウトサイダー企業が相当数あると思われまますので、各地区部会ごとにその実態把握に努めて頂きたく、ご差し当たったの課題だと思えます。

その後、諸先輩や役員の方々そして組合員各位のご理解・ご協力を得ながら一社でも多くの委員増強に努めたいと考えておりますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

技術開発委員会の活動について

技術開発委員会 下畦正明

先の相合理事会において、再度技術開発委員会の仕事を仰せつかりました。今後の活動方

針については、皆様良くご存知のように当委員会では毎年秋に研修会を開催して、その時々テーマにより講師をお招きして講演や研修を行っています。

今年につきましては十月二十八日に組合創立四十周年の記念式典が予定されていますので、一カ月遅れの十一月十八日に名古屋にて予定をしております。

テーマについては、委員会にて検討を進めていますが、トヨタ生産方式のさらなる研修をという声が大いのように思われますので、また視点を立ててやってみたいと考え、講師の東西先生と調整中です。

また当委員会はその名に恥じないように、色々な技術的な視点で、組合員の皆様にも有用な情報なり活動をしていく所存ですが、昨年から今年にかけて活動し、四月に実施しましたインターバック視察ツアーも当委員会が担当し、海外の技術を勉強するという視点では、有益であったのではないかと考えます。

当業界を取り巻く環境は厳しく、たゆまず改革や前進を図る必要がありますので、我々委員一同、皆さまのご意見を反映しつつ活動していく所存ですので、皆様のご支援、ご協力をお願いする次第です。

IT委員会の本年の活動としては、次の三事項について取り組む予定です。

IT委員会 村上和弘

① ホームページのリニューアル(十月頃)

組合員の皆様に見てもらい、役立つホームページを目指す。

② メール活用の推進(理事会からはじめ順次拡大)

組合員間の連絡にメールを活用することにより、低コストで迅速な情報交換を図る。

③ メールマガジンの発行(三月頃)
組合からの情報発信をメールマガジンで行う。

これらの取り組みを行っていく計画ですが、IT委員会では仕組みを作るだけであり、ホームページやメールマガジンに載せる情報については、皆様方から提供していただくなければいけないと思います。色々な情報などの提供をお願いしていくと思いますが、ご協力の程よろしくお願ひします。

青年部会 総会報告

第七回の「青年部会通常総会」が平成十七年六月二十四日に松山の全日空ホテルにて、十七社の参加六社の委任状参加で開催され第一号議案、第二号議案共に無事承認されました。

第三号議案では、昨年の「紙管用語集」に続き青年部会からのアウトプット第二弾として青年部独自の「ホームページ」の開設が審議されました。

田中紙管(株)の田中委員長のもと、まだまだ内容の審議検討中ですが着実に進行しており近々にご紹介出来る事と思えます。

また、親組合総会時の竹本理事長の一年間限定の理事長職お引き受けの件は部会員一同深刻に受け止めており、理事長始め諸先輩方の意思を引き継ぎ一刻も早く我々が立ち上がりなければとの決意も固めました。

翌日の懇親ゴルフコンペは、青空の下「道後ゴルフ倶楽部」で開催され、日本化工機材の大澤氏が優勝、上野紙業の上野氏が準優勝、三位は昭和プロダクツの岩本氏となり楽しい一日を過ごし無事終了致しました。



大和板紙株式会社

代表取締役社長
北村光雄

〒582-0004 大阪府柏原市河原町5-32

TEL 0729-71-1445 FAX 0729-71-1449



NIPPON DASHIWA
PAPER CO., LTD.

日本大昭和板紙株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目1番3号

TEL 03-3242-7311 FAX 03-3242-7312

■生産会社

日本大昭和板紙東北 日本大昭和板紙関東

日本大昭和板紙吉永 日本大昭和板紙西日本

「トヨタ生産方式を地で学ぶ」

西部地区部会長 中本忠恵

六月二十三日、恒例の西部地区部会総会を開催した。ここ数年、総会は研修会とセットで実施している。全国紙管工業組合では二年連続して「トヨタ生産方式」の研修会を実施したのでこれを本場で勉強しようと言った。つてがあり、デンソー高棚事業所を見学させてもらった。この工場は自動車のメータ等計器類の専門工場で全世界のトヨタの工場に出荷されている。自動車なので少品種多量生産と思いが、ものすごい多品種少量生産なのである。最低十二個の単位から生産をしている。セル生産がこのような多品種少量生産を支えている。部材はかんぱんによって絶えず供給される。部材・仕掛品・製品のラックは自前のパイプとジョイントで組み立てられておりラインのレイアウトは自在に変更できる。

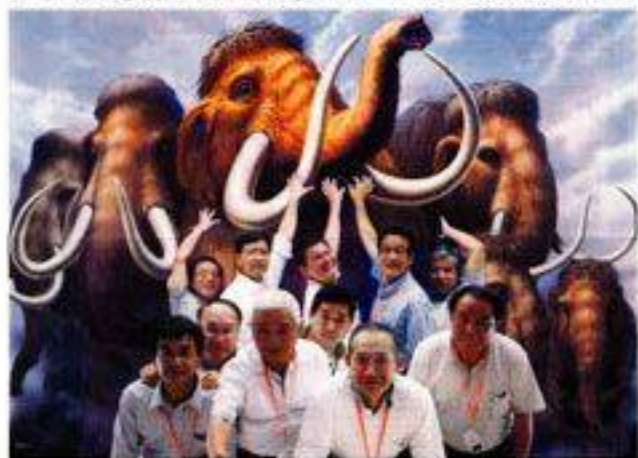
翌日は「愛・地球博」を見学した。大変な人出で、人気のトヨタ館、日本館は時間の制約もあり、はなから諦め「グローバルハウス」のマンモスの展示に絞った。運良く読売地球新聞に特集される好運を得た。よく遊びよく学びを地で行く楽しく且つ有益な総会であった。今年の後半も盛りたくさんな西部地区部会メニューが用意されており一層の部会活動が期待される。

5Sの徹底された工場は整然と品物が流れている。やはりSeeing is believingであった。

その晩は袋井の葛城・北の丸で一泊した。全員、盛り上がったのは言うまでも無い。全員、喉潤れ。

読売地球新聞

全国紙管西部部会一行笑顔の万博



「愛・地球博」グローバル・ハウスの説教館開館センターを訪れた 全国紙管西部部会一行

読売地球新聞に掲載された写真の左側には、本会一行のメンバーが笑顔で写っています。右側には、mammothの展示が紹介されています。

読売新聞へのお問い合わせは 0120-4343-81



高性能紙管用接着剤
HMノールCK-551 寸法安定性良好
HMノールCK-661 耐圧強度良好
 完全水性紙管すべり剤
スライダーKS 漏れ防無し
 紙管用接着・すべり剤製造販売

株式会社森川商店
 代表取締役 森川敬介

【本社】京都府下京区堀川五番上 1 丁目 1200-39
 TEL: 075-341-8121 FAX: 075-341-8143
 http://www.morikawa-shoten.co.jp

【テクノセンター】京都市此花区御所1-200-39
 TEL: 077-363-8874 FAX: 077-363-8894
 E-mail: techno@morikawa-shoten.co.jp

中芯原紙、紙管原紙
 美粧段ボールケース

株式会社 岡山製紙
 取締役社長 佐藤 勇

〒700-0845 岡山市浜野1-4-34
 TEL: (086) 262-8750
 FAX: (086) 264-4943

HAYASHIBARA GROUP

平成17年度 紙管製品需要予測調査報告

全国紙管工業組合

	化成フィルム用	製紙用	情報加工紙	化繊織物用	織維織物用	テープ用	土木建築用
14年度紙管製品別需要量実績(ト)	119,725	43,898	21,785	22,461	2,946	21,234	4,844
14年度紙管製品別需要割合(%)	39.90	14.63	7.26	7.48	0.96	7.08	1.61
15年度紙管製品別需要量実績(ト)	134,416	52,356	24,610	22,326	4,090	23,959	5,783
15年度紙管製品別需要割合(%)	41.09	16.00	7.52	6.82	1.25	7.32	1.77
16年度紙管製品別需要量予測(ト)	136,190	52,017	24,982	21,243	4,186	23,906	5,937
16年度紙管製品別需要割合(%)予測	41.47	15.84	7.61	6.47	1.27	7.28	1.81
16年度対前年比較需要品別伸び率(%)予測	101.32	99.35	101.51	95.15	102.35	99.78	102.67
16年度紙管製品別需要量実績(ト)	143,947	46,514	21,406	15,265	5,346	28,063	9,773
16年度紙管製品別需要割合(%)	44.08	14.24	6.56	4.67	1.64	8.59	2.99
16年度対前年比較需要品別伸び率(%)予測	107.09	88.84	86.98	68.37	130.71	117.13	169.02
17年度25社紙管製品別需要量(ト)予測	69,988	25,421	11,368	17,453	2,044	14,814	5,333
17年度25社紙管製品別需要割合(%)予測	39.78	14.45	6.46	9.92	1.16	8.42	3.03
17年度紙管製品別需要量予測(ト)	148,679	47,973	21,453	16,335	3,857	27,956	10,064
17年度紙管製品別需要割合(%)予測	44.78	14.45	6.46	4.92	1.16	8.42	3.03
17年度対前年比較需要品別伸び率(%)予測	103.29	103.14	100.22	107.01	72.14	99.62	102.97

	一般容器用	鉄鋼用	その他梱包用	IT関係	その他	合計
14年度紙管製品別需要量実績(ト)	18,008	9,371	17,713	—	18,105	300,090
14年度紙管製品別需要割合(%)	6.00	3.12	5.90	0.00	6.03	100.00
15年度紙管製品別需要量実績(ト)	16,440	13,569	17,535	—	12,055	327,139
15年度紙管製品別需要割合(%)	5.03	4.15	5.36	0.00	3.68	100.00
16年度紙管製品別需要量予測(ト)	15,507	13,790	18,972	—	11,652	328,382
16年度紙管製品別需要割合(%)予測	4.72	4.20	5.78	0.00	3.55	100.00
16年度対前年比較需要品別伸び率(%)予測	94.33	101.62	108.19	—	96.65	100.38
16年度紙管製品別需要量実績(ト)	11,775	11,026	17,785	1,967	13,683	326,551
16年度紙管製品別需要割合(%)	3.61	3.38	5.45	0.60	4.19	100.00
16年度対前年比較需要品別伸び率(%)予測	71.62	81.26	101.43	—	129.82	99.82
17年度25社紙管製品別需要量(ト)予測	6,946	6,043	9,120	1,045	6,365	175,939
17年度25社紙管製品別需要割合(%)予測	3.95	3.43	5.18	0.59	3.62	100.00
17年度紙管製品別需要量予測(ト)	13,109	11,404	17,211	1,972	12,012	332,025
17年度紙管製品別需要割合(%)予測	3.95	3.43	5.18	0.59	3.62	100.00
17年度対前年比較需要品別伸び率(%)予測	111.33	103.43	96.77	100.28	87.79	101.68

品 種	内 容	平成16年度需要予測コメント内容
化成フィルム用	フィルムのコアーとして使用されている紙管。シームレス紙管も含む。	増設・包装用から付加価値フィルムへの移行・IT関連の需要拡大等で一部増加傾向が見られる。
製紙用	新聞、印刷洋紙、コート紙、特殊紙、クラフト紙、板紙等のコアー。トイレットペーパー用紙管。	洋紙用は好調、再生紙管の利用率が増加拡大する一方で新管の増加もありほぼ横ばい傾向
情報加工紙	FAX用感熱紙、端末用感熱紙、レジスター用紙等に使用される2.5mmφ以下の小径紙管。その他乗車券等の磁気コートした紙のコアー。	一部海外移転・FAX用紙の使用減少で減産とあるが、一部に増産増設もありほぼ横ばい傾向
化繊織物用	化繊系、紡績系、炭素繊維系等の原糸、加工糸の巻き芯、紡織用コーン紙管。	廃業・減産傾向が続いている
織維織物用	プリント生地、織物、編物生地等の織維織物の巻き芯。	さらに減少傾向
テープ用	包装用、医療用、その他の用途の粘着テープや接着テープの巻き芯。	現状維持のまま、ほぼ横ばい
土木建築用	建築、土木用に使用されるボイド・チューブ、型枠用に使用される紙管等、その他建築部材として使用される紙管。	昨年は愛知万博関連建設の特需あり好調、本年は例年並に横ばい傾向
一般容器用	乾電池用保護用、丸型一般容器、紙管を使用したコーキング剤カートリッジやトナー容器。	リサイクル法により使用度変更・包装様式の変更・簡素化などによりやや減少傾向
鉄鋼用	ワイヤー、電線等の巻線用コアー、金属箔や金属板コアー、鉄鋼生産時の温度炭素量計測用に使用される紙管。	一部需要減少が見られるが、鉄鋼業界の持ち直し、需要開発によりやや増加傾向
梱包用	コーナーボード、梱包用角紙管、軽量パレット用紙管、耐油、耐水用紙管(のり網用、ローラーペイント用)。	新規製品・需要開発・輸出増加などもあり増加傾向
IT関連用	コイルの巻き芯等の情報機器に使用される紙管、情報用機器等の組み立て用に使用される紙管。	一部紙管使用方向での営業転換・新製品などにより増加が見られるもののほぼ横ばい傾向
その他	その他上記に属さない紙管。	ほぼ横ばい傾向



ツアー期間 平成17年4月22日(金)～26日(木)



視察日程

4月22日(金)

朝 成田及び関空よりアムステルダム経由ケルンへ(航空機)
 タ 宿泊ラマダトレフ ケルン市 (バス)

4月23日(土)

朝 デュッセルドルフのメッセへ (バス)
 インターパック会場にて視察

タ 宿泊ラマダトレフ ケルン市 (バス)

4月24日(日) 観光日

午前 ボン市内見学 (バス)
 ボン大学、ベートーベンハウス

午後 コフレンツ (バス)
 ライン川の船に乗る

タ 宿泊インターコンチネンタル フランクフルト (バス)

4月25日(月)

朝 視察先へ (バス)
 EBELWE SA社 視察

午後 (バス)
 (フランスの紙管製造機械メーカー)

タ 宿泊インターコンチネンタル フランクフルト (バス)

4月26日(火)

朝 視察先へ (バス)
 CARL MACHNER GMBH & CO社 視察

午後 (バス)
 (ドイツの紙管原紙メーカー)

タ 宿泊インターコンチネンタル フランクフルト (バス)

4月27日(水)

朝 フランクフルトよりアムステルダム経由 (航空機)
 成田及び関空へ帰国の途へ

4月28日(木)

朝 成田並びに関空に無事帰国し、解散



参加メンバー



紙管原紙統計表

(数量・金額百万円)

年月	生産	計	出荷		その他	月末在庫
			数量	金額		
平成11年	307,670	309,643	274,743	17,460	34,900	18,071
12年	313,845	313,200	279,401	17,560	33,799	18,716
13年	306,083	300,718	268,677	16,536	32,041	21,837
14年	305,995	310,189	273,582	15,952	34,078	19,325
15年	318,774	315,544	290,840	18,289	24,704	22,001
16年	292,271	290,497	267,040	15,692	23,457	275,979
17年11月	27,378	27,739	25,289	1,512	2,450	24,759
12月	26,314	26,422	24,347	1,460	2,075	24,651
17年1月	25,272	24,965	22,758	1,364	2,207	24,958
2月	26,132	24,958	22,798	1,362	2,160	26,132
3月	28,128	28,476	25,775	1,523	2,701	25,784
4月	28,930	27,597	25,232	1,494	2,365	27,117

経済産業省 紙・パルプ製造統計月報

4月25日(月)

EBERLE S.A.社 視察
(フランスの紙管製造機械メーカー)



今回の視察でなんとと言っても興味深かったのは紙管製造機械メーカーのEBERLE社と原紙メーカーのCARL MACHER社です。
EBERLE社の生産品種はスパイラルマシン、自動紙縫ぎ原紙掛、紙管切断機など多岐に渡って製作していることに加え、紙管製作のラインをまとめたシステムを製作する能力を持っているように感じられました。我々が訪問すると、社長のM. EBERTMをはじめ多くのスタッフが出迎えてくれ、歓迎していただきました。工場内には、大きくスペースをとって五、六台の紙管切断機、数台のスパイラルマシンがデモ用として展示されていて、それぞれの機械を実際に動かしてデモをして頂きました。
日本では考えられないようなことで、びっくりしました。

なかでも紙管切断機は日本の機械とは少々異なり、刃物部が固定されて、紙管の方がチャックで掴まれ引き込まれて必要な長さに切断していく方式でした。これのメリットは切芯が刃物部の所だけあれば事足りるわけで、多種の内径に低コストで対応できることではないでしょうか。
聞いたところでは、機械の価格は日本で我々が頭に描いている価格とはだいぶ隔たりがあるようです。



4月26日(火)

CARL MACHER GmbH & Co.社 視察
(ドイツの紙管原紙メーカー)



CARL MACHER社は紙管原紙専業のメーカーで、フランクフルトから東へバスで三時間半ぐらいの田園地帯にあり、工場がある場所でした。抄紙機は幅3.65mで一層抄きで、250-300TON/日の生産を行っているとのこと。質疑応答では参加された原紙メーカーの方々が盛んに質問をされましたが、日本と異なる点は水の使用量が大変少ないことや、薬品類の使用量も少なく省資源、環境保護という点においては考えさせられる二面でした。品質とそれにかかるコストとのバランスを如何に考えるかという点では、過剰品質気味の日本の製造業も考える必要があるかなと思いました。



両社の視察では、我々視察団に対して大変好意的に受け入れて頂きました。次回向こうより来られる時には、是非同じように接遇したいと思います。

特許出願中

新無可塑剤型
紙管用接着剤
A-560シリーズ



アイカ工業株式会社
東京本社 化成系カンパニー営業部
東京都練馬区豊玉北6-5-15 アイカ東京ビル
TEL 03-5912-2774



紙は時代のメッセージ。

富山製紙株式会社

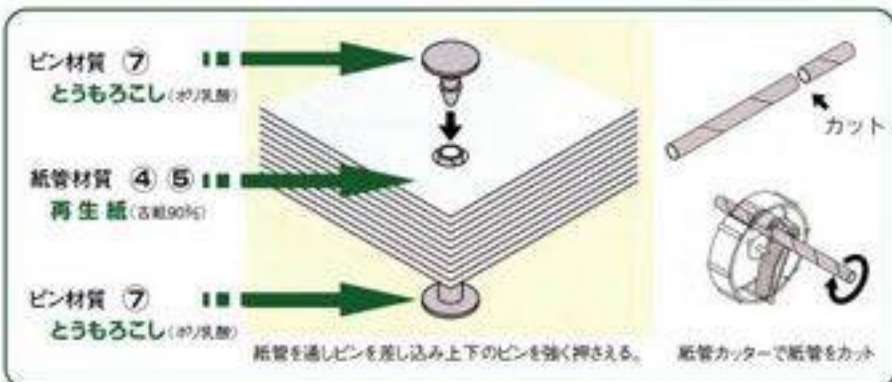
代表取締役社長 寺崎 敏治

本社工場/富山市下新西町3番14号 〒930-0807
TEL (0764) 32-1147 FAX (0764) 31-4498

地球にやさしい「緩っこ」



製本後の最終処分「再生・焼却・廃棄」何れの処分も可能です。
 とうもろこしのデンプンや、糖類などを材料としたピンと古紙を使った紙管を使用していますから、分別なしで廃棄できます。さらに燃焼カロリーが5000以下と低く、燃焼時にも炉を傷めません。



セキスイエスデザイン株式会社

環境に優しい 紙管の専門家



大きく育てよう---市場に学び、可能性にチャレンジ

大阪市北区西天満2-4-4 (堂島関電ビル5F)
 TEL:06(6365)4603 FAX:06(6365)4607

環境循環型ファイル エコ文具「緩っこ」

詳細は、カオル工業株式会社まで

お問い合わせ下さい。

神奈川縣相模原市 TEL 042-742-5197
 麻溝台6-15-3 FAX 042-746-2106

紙管用接着剤

コニシ株式会社 代理店

株式会社 旭 栄

大阪市北区天神橋1-1-1 電話 06-6354-0356

環境に配慮した

無可塑剤型

紙管用接着剤

ボンドCNシリーズ

ボンドCN140 ボンドCN150

コニシ株式会社 (ボンド事業本部)

本 部 / TEL.06-6228-2951
 東京支店 / TEL.03-5259-5734

昭和高分子の
紙管用接着剤

ポリゾール



昭和高分子株式会社

取締役社長 柏田 邦夫

本 社 〒101-0054
 東京都千代田区神田錦町3-20
 電話 03-3293-8844 (代表)

支 店 大阪・名古屋・仙台・福岡
 営業所 富士・高松
 工 場 伊勢崎・高崎・竜野・大阪